

	第1回懇談会 委員からの意見等	対応・事務局回答	本文への反映
規約			
1	・「会長に事故があるときは、会長の指名する者がその任務を代行する」とあるが、会長が指名できないような状況の場合、どのような考えになっているのか。	・都合が悪くなったり、少し体調不良で出席できない場合を想定しています。	(回答のみ)
スケジュール			
2	・整備計画の公表時期はいつ頃か。	・関係市町、国及び関係機関との協議が整い次第公表したい。	(回答のみ)
流域概要			
3	・BOD75%値の相対差はどの程度か。	・BOD75%の最大値、最小値の差は、別添資料のとおりです。なお、環境省基準に合わせ、資料を再整理しました。	本文記載あり (P10)
河川整備計画の目標			
4	・久慈川河口から久慈大橋までの堤防のかさ上げ工事が進んでいるが、これは東日本大震災津波がきた場合どうなのか。昭和三陸地震津波程度と規模どの程度違うのか。	・今回、昭和三陸地震津波を対象として整備を行っています。昭和三陸地震津波は数十年から数百年に1回程度の規模であり、東日本大震災津波は数百年から千年に1回程度の規模となっています。このため、東日本大震災と同じようなクラスの津波が来た場合には浸水する恐れがあります。	(回答のみ)
工事の実施箇所、工事内容			
5	・小屋畑川の川幅をなるべく広くしてほしい。余裕を持って、あまり勾配をつけないようにして、豊かな川を作ってもらいたい。	・小屋畑川の付け替え区間は、約15mの川幅で計画しています。川幅を大きくできれば洪水に対しては安全になりますが、事業費も多額になり、効果の発現に時間を要します。このため、令和元年台風第19号と同規模の洪水でも家屋の浸水被害が発生しないことを目標にして、川幅等を決めています。また、豊かな川になるように、勾配については、今後落差工を設けるなどして、急流とならないように配慮していきたい。	本文記載あり (P20)
6	・小屋畑川の河道は15mと記載されているが、20mを超える場所もある。一律で15mとするのか。	・こちらは標準図となっており、その断面毎に幅が変わるものです。今後詳細設計を行い、断面を決定していきます。	本文記載あり (P17, 19, 21)
7	・普段は水がそんなに無いが、できれば夏になったら、子供たちがズボンをまくって、川に入るようなきれいな川もほしい。	・小屋畑川の河道付け替え区間については、片岸を緩勾配とすることで、川へアクセスしやすくする計画としています。なお、旧川の取扱いについては、久慈市と相談しながら、検討していきたい。	本文記載あり (P20)
8	・新街橋の架替えについて、幅や重量制限についてどのようになるのか。	・幅員等については、今後久慈市と相談のうえ、詳細に決定していきたいと思います。	本文記載あり (P19)
9	・小屋畑川の付替河道のバック堤は、長内川の合流点の築堤高と同じ高さの堤防を上流側まで整備するという考えか。	・そのとおりです。	本文記載あり (P21)
10	・長内川の堤防を通学に利用している生徒もおり、小屋畑川の河川改修による新河道によって、堤防が分断されると通学に影響がある。可能であれば現在のように通行できるように配慮願いたい。	・現在の計画は堤防を分断する形となるため、久慈市と相談のうえ、対応を検討していきます。	(回答のみ)
11	・用水路の付替えについては、サイフォン構造となるのか。管理が大変である。	・現在は、概略設計の段階であり、用水路の付替方式については、今後ご意見等も踏まえ詳細設計時に検討していきたい。	本文記載あり (P20)
12	・台風により浸水被害にあった生徒もおり、水害対策のため河川改修は望ましいと考えている。	・長内川は平成28年8月洪水、小屋畑川は令和元年10月洪水と同規模の洪水で家屋の浸水被害が発生しないように河川改修を実施していきます	本文記載あり (P13)
13	・どの河川にも配慮事項が書いてあり、住民との話し合いをする中で、いい川を作ってほしい。	・住民説明会などを通し、配慮事項なども踏まえ計画を立案していきます。	(回答のみ)
河川環境			
14	(懇談会后にいただいた意見) ・河川環境に係る表現について、一部修正のこと。	・指摘に合わせて修正を行いました。	本文記載あり (P1)
15	(懇談会后にいただいた意見) ・河川を切り替えても常時は伏流しているため、伏流水は旧川にいくと思われる。融雪出水の際等はサクラマス等が長内川合流点からある程度のところまで入ってくると思われる。落差工はプール等の休息箇所、石等の遮蔽による流れの緩衝箇所を設けること、落差の切り欠きは滑らかにすることが大事。	・今後、詳細設計時に具体的に検討していきます。	本文記載あり (P20)

	第1回懇談会 委員からの意見等	対応・事務局回答	本文への反映
16	<p>(懇談会後にいただいた意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(左右岸で土地利用も変わらない) 直接河道で左右岸で護岸有り無しとすると護岸がない方だけ崩れていくのではないか。みお筋は固定しないで、15mの河道内で川が動ける河床のスペースを設けた方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩勾配側については、流速に耐えられるような構造とすることで検討しています。場所によって、左右岸を逆にしたり、水衝部となる部分には護岸を配置したり、川が動けるように配慮するなど、今後詳細設計で具体的に検討していきます。 	本文記載あり (P21)
維持管理			
17	<ul style="list-style-type: none"> ・川の中の木を伐採してほしい。木が流れて橋にひっかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道内にある支障木については、水が流れにくくなることや、流出した際に橋梁にひっかかるなどするため、伐採を行いたい。必要に応じて、有識者の意見も伺いながら伐採範囲について検討したい。 	本文記載あり (P23)
18	<ul style="list-style-type: none"> ・国道45号の橋梁に木が詰まり浸水した。河床も土砂が堆積し上がっている。現地を確認してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月11日に現地を確認させていただきました。県管理区間の上流部付近を除き、土砂の堆積、支障木、側方浸食が見られました。このため、有識者の意見も伺いながら、樹木伐採、河道掘削を実施していきたい。 	本文記載あり (P23)
洪水時における対応等			
19	<ul style="list-style-type: none"> ・沢川のポンプについて、久慈川の水位が高くなった場合、避難するしかないと思うのだけれども、そういうものは想定しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンプの運転基準、操作規則などを設けて運転する必要があると考えており、今後検討していきます。また、浸水被害の恐れがあるような強い豪雨の際は、水位情報やカメラ情報、現在作成中の想定最大規模の洪水浸水想定区域を反映したハザードマップ等を確認し、早めに避難をしていただきたいと考えています。 	本文記載あり (P25)
その他			
20	<ul style="list-style-type: none"> ・森林伐採後に作業道の後処理が悪く、枝や土砂が川に流れ込んでくるので、森林伐採に関して条例なりを作って土砂が流れ込まないような方法をさぐっていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流域のあらゆる関係者が集まって流域治水プロジェクトを進めていかなければならないと考えておりますので、治山の関係者とも連携しながら検討していきたい。 	(回答のみ)